

平成8年度女子委員会全国連絡委員会会議報告

- 期日 平成8年7月20日～21日
- 会場 国立霞ヶ丘陸上競技場大会議室
- 参加者 川端朋子（長崎県女子委委員会理事、長崎県連絡委員）
- 連絡委員 36県から42名が参加、女子委員会13名 合計55名

【会議報告】

(1日目)

- ① 女子委員会活動について目的に明確化と各前年度報告と今年度活動計画
活動目的は、女性指導者育成、審判員育成、女子競技普及強化
- ② 女性指導者及び女性審判員実態調査のための用紙配布。第14回レディース陸上審判員派遣の依頼及び推薦の用紙を配った。
(この第14回大会の対象県は富山、石川、福井、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口の17県で各県下1名である)
- ③ 女子長距離選手のウエイトトレーニングの実態（梶原洋子さん）
1982年のマラソン草創期の頃から最近の中学駅伝のものまで調査したデータをまとめた資料で報告。現在のランナーは以前より細くなっているのに、さらにやせ志向、若年齢者のほうが、ウエイトコントロールをしている。接触行動異常もしくは、予備軍的傾向が年齢が低いほど多い。低栄養状態にあり、月経異常、骨の障害につながっていくことが懸念される。食育が必要。摂食障害に関して現状把握しながら啓発していかなければならない。
- ④ アジア女子陸上シンポジウム参加報告（田中良子さん）
- ⑤ 地方陸上競技協会女子委員会報告

岩手県・福田絹子さん

女性理事1名誕生。県内の女性審判員、女子選手、陸上指導者、陸上強化員のすべての数を把握し、資料で提示。学校関係、競技指導、家庭をもつ女性の諸問題など問題は山積み。今年1月に「陸上競技に携わる女性のつどい」を温泉1泊で実施。趣旨は「本音ではなそう」というもの。参加者は小学校1名、中学校6名、高校9名の教員。時間をかけて話し合った。いろいろな問題の解決は難しいが、励まし合う仲間がいて、陸上大好きな人間があつまり、みんなで一生懸命やっという確認。有名中学校や有名高校を見学にいたり、指導者に指導をお願いするなどの工夫、意見交換、練習方法のビデオを見せ合うなどそういう機会を設けた。

鳥取県・岩間悦子さん

平成7年女子部を組織。全国会議報告を競技会のあとに実施した。県内各大会への役員参加、審判員の動員をするため、アンケート実施。参加しやすい方法などを研究。県の審判部に申し入れもした。小学校対象の陸上教室も実施。その中でも女子指導者が大幅に活躍。県の陸上競技協会と連携をとり、種目を選んで、女性だけの審判や補助員でやる計画もある。

⑥ ブロック別ミーティング、発表

・良い選手、指導者がいるのに、各県ともその受け皿がない。教員採用試験採用数が少ないのと実業団数の少なさ。職場の管理職や同僚、夫の理解あつてできる。また女性指導者の意識改革が必要。女子委員会全国の合宿みたいなので、意見交換はできないか。悩みを話し合う場がほしい。小さな事からいいので若手を育てていきたい。(北海道・東北ブロック)

・教員採用が少ない。県の女性採用がわずか。家庭との両立が難しい。子育ては細かく長く、やめずに活動することが重要。男性と対等という立場も大切だが、女性がまずできる仕事から行っていくことも大事である。女子指導者が悩みをはなしあえる会を開催したい。「関東ブロック女子指導者による選手育成合同合宿」により女子生徒同士も刺激になる女性の合宿ができれば。（関東ブロック）

・家庭との両立ができない。県の合宿に参加しても女性はマネージャーてきなことしかさせてもらえない。教員採用数が少ない。そのため、若手の指導ができない。採用があっても、別の部をもたされたりして貢献できない。県によっては、女子部創設を反対し、必要性も認められない。（北陸・東海ブロック）

・結婚や育児が活動を妨げる。男性女性ともに大人が子どもを預けて大会へ参加する広島県の例もあり、方向付けを感じさせられる。午前中、午後のみというふうに審判をできる方法も今後考えられる。手当の問題もあるが、保育部署については、検討していきたい。

また、各県の連絡委員がより普及につとめる必要がある。審判講習会参加の学生達を継続して現場で活動できるようにはたらきかけ、女子選手のその後を把握し、協力をよびかける。地方でもっと意見交換をするようにしてほしい。全国会議を東京以外で。フリー討議の場がある。立場によるグループわけでもいい。もっとゆっくりきき、ゆっくり話せる場にしたい。女子指導者、審判に関する待遇について、先進県の例を女性委員長が評議委員会ではなし、各県の陸上競技協会が理解してくれるきっかけをつくってほしい。

（近畿・中国地方）

・中学校高校の採用数がすくない。勤務校に陸上部がない。人事異動の問題。結婚後の問題。徳島県では、大会開催のときに託児所がある。女性審判員が活躍できる環境作りがある。毎日の指導でも女性は家庭もあると大変。協力が大きい。女子委員会があるのは徳島、長崎、高知。来年福岡ができそう。国体のスタッフに必ず1名女性を入れるよう、日本陸連側からしっかりもって行ってほしい。（四国・九州）